

令和元年度 第3回浦安市生涯学習推進計画策定懇談会

議事要旨

日時：令和2年1月23日（木）

午後2時～4時

会場：市役所10階 協働会議室

<出席委員>

野島 正也	会長
藤田 朗	副会長
野川 春夫	委員
米山 泉	委員
影山 栄子	委員
吉野 忍	委員
武澤 秀明	委員
工藤 真由美	委員
福元 明彦	委員
長島 康晴	委員
阿部 信之	委員
上野 実千代	委員
登内 明	委員

<欠席委員>

関谷 昇 委員

<議 事>

1. 開会

会長あいさつ

教育委員会あいさつ

2. 議事

(1) パブリックコメントの実施結果について

(2) 第2次生涯学習推進計画・スポーツ推進計画（案）について

(3) その他

3. 閉 会

<配布資料>

・資料1 パブリックコメントの実施結果について

・資料2 第2次浦安市生涯学習推進計画・浦安市生涯スポーツ推進計画（案）

・資料3-1 第2次生涯学習推進計画 施策事業一覧（案）

・資料3-2 生涯スポーツ推進計画 施策事業一覧（案）

（参考資料） 施策事業シート 記入例

1. 開会

会長よりあいさつが行われた。

教育委員会よりあいさつが行われた。

2. 議事

(1) パブリックコメントの実施結果について

事務局より説明が行われた。

(2) 第2次生涯学習推進計画・生涯スポーツ推進計画（案）について

・第2次生涯学習推進計画（案）について

(委員) 総論的にはよくできていると思うが、細かなところで何点か伺いたい。計画の進行管理は、現計画では生涯学習推進本部となっているが、今回の計画ではどこが行うのか。

(事務局) 生涯学習推進本部ではなく事務局が行う。

(委員) 教育委員会の点検・評価の報告は、市議会に対しても行われるのか。

(事務局) 行っている。

(委員) これまでの公民館運営審議会では、計画の進行管理に関する協議は行われていなかったもので、是非やってもらいたい。P7(3)について、趣旨は賛成だが少数の外国籍市民に対してここまで記載して計画が実現していくことができるのか。計画全体に関して、写真は掲載するのか。

(事務局) イメージ写真は今後計画書のデザインの段階で掲載する。

(委員) 資料3-1の事業名で〇〇経費といったものがあるが、この名称はそのまま用いるのか。

(事務局) 事業の名称については予算上の名称で記載しているものもあるため、取り組みや事業名に変更する。

(委員) 協働推進課の事業や市民大学に関連する事業の数が少なく感じる。また、200を超える事業すべてを評価するのは大変ではないか。

(委員) 推進本部が設置されて以降も実質的には事務局が進行管理を担ってきた。次期計画からは実態に即した進行管理を行う。公民館運営審議会は報告の時間が多く意見交換の時間が少なくなってしまうことが気になる。今後計画の進行管理に関して意見交換の時間も十分に確保できるとよい。

(委員) 障がい者の生涯学習の推進について国でも動きがあったのでふれられるとよい。

P6において、「新しい公共」という視点も生涯学習推進にあたっては重要だと考えている。そうした趣旨も追記できると

- よい。
- (事務局) 表記について検討する。
- (委員) P4の「計画の位置づけ」の図で、生涯学習推進計画のみ「第2次」とあるが、この表現が必要かどうか再考してほしい。重点的な取り組み2に「一人ひとりのニーズにあった学習メニュー」という記載があるが、市民の主体的な活動を推進するという考え方からすると表現が少し古いので、別の用語を検討してはどうか。
- (委員) P23の注釈で成人期を20歳からとしているが、成人年齢引き下げの議論もある。「おおむね20歳から」としてはどうか。
- (委員) デジタルネイティブである子どもたちは学び方も変化しているということから、こうした視点は重点的な取り組みにキーワードとしていれておいてはどうか。その一方でICTの進歩についていけない人たちの学びを考えることも重要だろう。
- (委員) P7(3)については、10年間の計画ということ考えると今はできていないことでもふれてけるとよい。外国人が浦安市内で様々な体験ができ、短期・長期にかかわらず来訪してもらうということは人口減少が進む今後のことを考えると、取り組むべきだろう。また、国籍等の違いから社会的な孤立を生じさせないためにも生涯学習は重要になると考えている。
- (委員) 地域の活動を推進していくうえで他者への理解は重要だと考えている。一方で実現可能かという視点も重要である。
- (委員) 第2章、第3章と重点的な取り組みの整合もあらためて確認してほしい。
- (委員) 施策体系図で施策4-2④は重点1、施策3-2②は重点3となるのではないか。
- (事務局) 修正を検討する。
- (委員) 3点ある。指標について、目標値を達成したらどうなるかということが見えづらい。重点的な取り組み1について、障がい者に絞ったということは理解できるが、今後10年の計画ということ考えると、外国人も含めた共生社会という考え方はスタンダードになるのではないか。また、P15(1)①で約66%という表記があるが、グラフから読み取れない。
- (事務局) 1点目について、指標をもとに進捗を管理していくことで、毎年度の成果を担当課で検証していくことができる。また、その成果を事務局や教育委員会において確認していくことができるものと捉えている。
- 2点目については、取り組みの評価により見直していく。

3点目について、図6の中で全体から「生かしてみたいと思わない」「無回答」を除いた数値を算出している。

- (委員) 計画の中間年でまた意識調査を実施するのか。
図6については、ぱっと見てわかりやすい記載になっているとよい。
- (事務局) 計画の中間年で意識調査を実施する予定である。また、図6の説明については、わかりやすい表現を検討する。
- (委員) 第4章にまちづくりプラザや市民大学は入らないのか。市民からしたら同じ計画推進の拠点となる施設である。
- (事務局) ご意見は理解している。計画の対象は市長部局が管理する施設も入っているが、この計画における拠点施設という視点では教育委員会所管の施設を中心に施策を進めていくこととしている。
- (委員) この計画では、教育委員会の所管する施設を生涯学習施設、市民大学やまちづくり活動プラザなどは生涯学習関連施設としている。これらの施設が連携しながら計画を推進していくということになる。

・生涯スポーツ推進計画（案）について

- (委員) 計画の見直しはどこの部署が行っていくのか。
資料3-2の事業19と20についてどのような考えで施策を推進していくのか。
- (事務局) 市民スポーツ課を中心に計画の見直しを行っていく。
資料3-2の事業19ではスポーツ協会が取り組んでいる活動を支援していく。庁内において、福祉分野との連携体制の構築も検討している。
資料3-2の事業20では次年度に準備委員会を立ち上げる。そこで、走路など具体的な検討を進めていく。
- (委員) eスポーツはスポーツに含まれると考えている。その旨を記述できるとよい。
- (事務局) 施策1-1-③の記述となっているが、新しいスポーツへの対応には取り組んでいく。
- (委員) スポーツ人口が減少している実感もある。みる・ささえるスポーツももちろん重要だが、スポーツをする人を増やしていくことが重要だと考えている。
- (委員) ささえるはひらがなでよいのか。また、「ウォーキング」ではなく「ウ“オ”ーキング」ではないか。
- (事務局) 国に合わせて「ささえる」としている。「ウォーキング」の表

記は確認する。

- (委員) 学校等と連携するにあたり、市が座組をしてもらえるとよい。スポーツ推進委員でも十分な連携ができていないと感じている。施策3-2は施設だけでなく、スポーツに関わる人・組織の関係づくりも重視してほしい。
- (委員) 学校部活動と総合型地域スポーツクラブの連携をより密なものにしていく必要があるという議論がある。総合型地域スポーツクラブの再活性化についても計画の中でふれられるとよい。
- (委員) スポーツ分野においても、障がい者支援を重点的な取り組みの中でふれられるとよい。また、浦安クリテリウムだけ事業名称が取り上げられていることに少し違和感がある。
- (委員) インクルーシブスポーツの考え方は非常に重要だと思うが、資料3-2をみると事業が少ない。具体的な取り組みをもっと検討できるとよい。
- (委員) 生涯学習・スポーツともに地域の中で生かすことは重要だと思うが、現時点では能力や友人関係など個人に頼らざるを得ない部分が多いと感じている。コーディネーターの配置など、だれもが地域にでていきやすいしくみづくりも重要だと感じている。
- (委員) ボランティアなどのささえるスポーツも含めて、レガシーをしっかりと継承していくことが重要だろう。市内に6つある総合型地域スポーツクラブも、学校との連携など地域の中でより柔軟に活動していけるとよい。

(3) その他

事務局より、計画冊子の印刷など計画完成までの予定について説明が行われた。

3. 閉 会

以上